

バリュエーション指標について ～PERが示すもの～

株式市場の状況をつかむ手法の一つとして、バリュエーション(価値)分析があります。その代表的な指標の一つであるPER(株価収益率)は、企業の株価を当該企業のEPS(一株当たり利益)で除して求められる指標であり、一般に当該企業の株価が何年分の利益を織り込んでいるかを示します。PERが高ければ「割高」、低ければ「割安」と言われます。

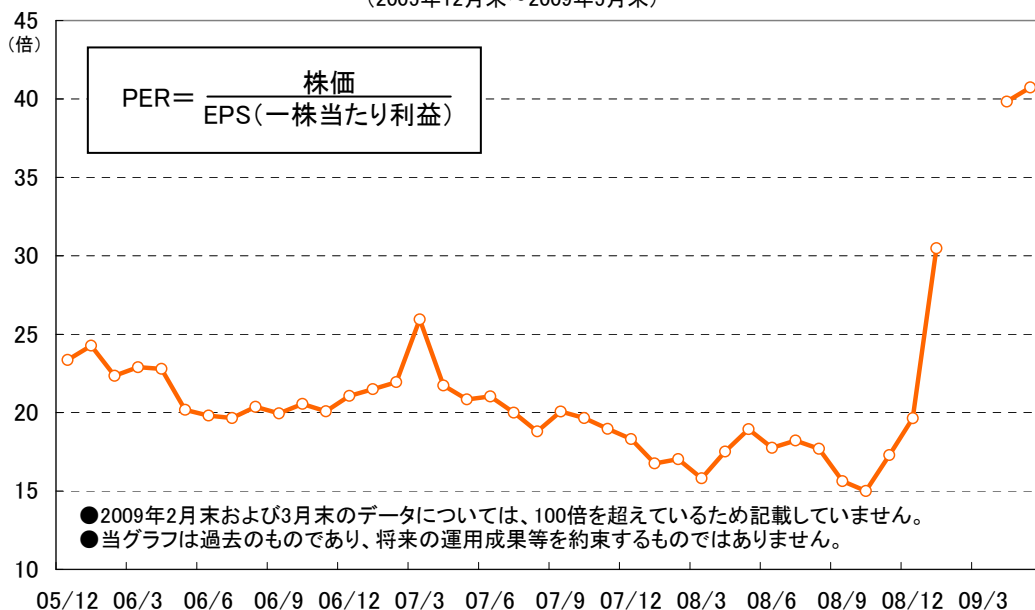
下記のTOPIX(東証株価指数)の予想PERの推移を見ると、2007年夏以降、米国に始まる世界的な経済成長の鈍化を反映して世界の株価が急落、連れて日本の株価も低迷する中で、TOPIXの予想PERは2008年秋に一時15倍台へと落ち込みました。しかし、その後は企業業績の低迷などを背景にEPSが急激に減少し、100倍を超える「割高」の期間を経て、2009年5月末では40倍程度となっています。

さて、この「割高」という判断、一体どういう意味なのでしょう。ともすれば、「割高」=「買い損」という日常的な感覚があるため、日本の株式へ投資を行なっても、将来収益が期待できないという認識を持ちがちです。実はこの「割高」という判断、数値だけを見てしまうことにより、投資判断を取り違えている場合もあると言えそうです。

なぜなら、前述の様にPERは、株価÷EPSで算出しますので、EPSが変化する場合、株価が同じでもPERは変化してしまいます。つまり、PERによる「割高」という判断は、場合によっては企業の利益がこの先も増加(改善)しないという暗黙の了解に基づいて下されてしまうのです。ですから、将来の企業収益が改善すると予想した場合、実は株価は「割高」ではなかった、などという場合が時にはあるのです。PERが何倍だから「割高」と判断を下す前に、企業収益の行方などに思いを巡らせて見ることも必要に思われます。

『TOPIX(東証株価指数)の予想PER(株価収益率)の推移』

(2005年12月末～2009年5月末)



●信用できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

日興アセットマネジメント

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。